

二国間交流事業 共同研究報告書

平成23年3月31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

共同研究代表者所属・部局 京都大学・文学研究科

職・氏名 ^(ふりがな) 教授・^{たくぼ ゆきのり}田窪 行則

1. 事業名 相手国(フランス)との共同研究 振興会対応機関 (フランス外務省)
2. 研究課題名 属性実現に基づく条件文とモーダルの意味構造のモデリング
3. 全採用期間

平成21年4月1日～平成23年3月31日 (2年 ヶ月)

4. 研究経費総額

(1) 本事業により交付された研究経費総額 1,800 千円

初年度経費1,000 千円、 2年度経費800 千円、 3年度経費0 千円

(2) 本事業による経費以外の国内研究経費総額 0 千円

5. 研究組織

(1) 日本側参加者

氏名 <small>(ふりがな)</small>	所属・職名	研究協力テーマ
たくぼ ゆきのり 田窪 行則	京都大学文学研究科・教授	推論とモダリティ
いまに いくみ 今仁 生美	名古屋学院大学外国語学部・教授	属性実現による条件文、モダリティの形式化
たむら さなえ 田村 早苗	京都大学文学研究科非常勤講師	条件文、モダリティ
みき なゆた 三木 那由他	京都大学文学研究科博士後期課程	形式語用論

(2) 相手国側研究代表者

所属・職名・氏名 CNRS・Director of Research・Friederike Moltmann

(3) 相手国参加者（代表者の氏名の前に○印を付すこと）

氏名	所属・職名（国名）	研究協力テーマ
○Friederike Moltmann(CNRS)	CNRS・Director of Research (仏)	属性実現のモデル化
Alexandra Arapinis	(doctoral student IHPST, Paris) (仏)	属性実現のモデル化

6. 研究概要（研究の目的・内容・成果等の概要を簡潔に記載してください。）

目的 本研究の目的はフランス側の提出した属性実現（trope）というオントロジーを利用し、これに日本側の日本語モダリティ、条件文の研究とを統合し、これまでの条件文、モダリティに関する論理意味論をより精密化し、発展させることである。

内容 trope とはある属性の特定の対象における実現である。これまでは命題、もの、さらにはイベントといったオントロジーが想定され、それによって文の真理条件が表されてきたが、本プロジェクトのフランス側代表の Moltmann 氏は trope という属性実現をオントロジーとして利用することでさまざまな言語現象や推論操作が記述、説明できることを示してきた。我々は、日本語においても trope とイベント、命題とを区別することではじめて記述、説明できる言語現象があることを示し、これを名詞化のタイプと因果関係を表す理由文、条件文に応用した。

成果 名詞化に関しては、「さ」による形容詞の名詞化、「こと」による名詞化の意味機能の差を、統語的な差、それに対応する意味タイプの差として明らかにし、複数の国際学会で発表し、国際的なジャーナルに掲載した。理由文、条件文に関し、以上の方法に基づく研究を日本語学、日本語教育で行われた研究に応用し、国際学会、国内の有力な言語学系学会で発表した。